

CMS機能要件一覧表

《必須項目》要件区分が「必須」となっているもの 必須項目は絶対要件であり、本業務の委託費用内で実現可能なこと。 (パッケージ標準、オプション、カスタマイズなどの内容は問わない) ※代替案により実現可能な場合は対応欄に「△」を記入し、備考欄に代替案の実現方法を記入すること。 《推奨項目》要件区分が「推奨」となっているもの 推奨項目は、絶対要件ではなく、以下の3つの区分で、実現可否を記入すること。 ○: 本業務の委託費用内で実現可能な場合(パッケージ標準、オプション、カスタマイズなどの内容は問わない) △: 代替案により本業務の委託費用内で実現可能な場合(備考欄に代替案の実現方法を記入すること) ×: 上記「○」「△」以外の場合(不可能な理由を備考欄に記入すること) ※1つの項目内の要件で、一部の「×」となる場合は「×」を記入すること。 ※本業務の委託費用内で提案などがある場合は、備考欄に記入すること。	【評価方法】 《必須項目》 「○」「△」…評価対象とはしない。 「×」…失格 《推奨項目》 「×」…評価対象とはしない。 ※「△」の場合は、備考欄に記入された内容について必要に応じて調査を行い、CMS機能として実現可能な代替案に相当するかを判定し加減する。
--	---

1. 基本要件					
			要求区分	対応	備考
基本要件	1-1	導入するCMSは、過去5年以内に人口1万人以上の市、町、村、国、都道府県などにおいて導入実績がある製品で、かつホスティング環境(またはASP方式)による自治体サイトへの導入実績を有すること。	必須		
	1-2	CMS利用にあたって、各職員のクライアント端末に特別なアプリケーションなどをインストールすることなく、ウェブブラウザから利用できること。	必須		
	1-3	各職員のクライアント端末から、ブラウザを通して、ID、パスワード認証にてログインできること。	必須		
	1-4	各職員のクライアント端末のブラウザは、Microsoft Edge、Firefox、Google Chromeのいずれでも利用が可能であり、職員が作成・更新・管理業務が行えること。	必須		
	1-5	端末台数やユーザー数、ページ数やテンプレート数の増加により、ライセンス料が変動しないこと。	必須		
	1-6	ユーザー全員に個別のID、パスワード(原則として8ケタ以上)を付与できること。	必須		
	1-7	データと表示スタイルを完全に分離し、表示スタイルはすべてスタイルシートで管理すること。	必須		
	1-8	生成されるコンテンツデータ(ページ)については、XHTML1.0 Transitional以上の規格に準拠し、Web標準に配慮した文書構造を持つこと。また、アクセシビリティツールによる、コンテンツの音声読み上げ機能に対応していること。	必須		
	1-9	UTF-8の文字コードに対応すること。	必須		
	1-10	1つのページ内で複数の言語の記述が可能であること。	必須		
	1-11	公開サーバに表示されるファイルは静的なHTMLであること。ただし、イベントカレンダーなどで動的に表示させることが望ましいページがある場合は、その限りではない。	必須		
	1-12	閲覧者が画面をA4縦型で印刷する際、ブラウザやOSに関わらず内容が損なわれずに印刷できること。	必須		
デザイン	1-13	サイト全体として、統一化されたページデザインとすること。	必須		
	1-14	トップページなどは、HTMLやCSSの知識がある職員(サイト管理者)レベルで、デザインの軽微な修正ができること。	必須		
	1-15	大規模災害時や選挙、村を挙げてのイベントなどの際に、トップページへ重要なお知らせを表示する機能を有すること。	必須		
	1-16	大規模災害時や選挙、村を挙げてのイベントなどの際に、トップページ以外のすべてのページへ重要なお知らせを表示する機能を有すること。	推奨		
カテゴリ分類	1-17	カテゴリ分類は、想定される閲覧者(例: 引越・結婚・介護など)にの使いやすさを優先し、タイトルを見ただけでカテゴリ内のページの内容が想像できるようにすること。	必須		
	1-18	カテゴリ分類ごとにカテゴリトップページを作成すること。	必須		
	1-19	カテゴリトップページとは別に、部局ごとに部局トップページを作成すること。	必須		
	1-20	カテゴリトップページとは別に、課室ごとに所属トップページを作成すること。	必須		
	1-21	所属トップページには、独自の見出しを各所属の担当者にて自由に設定できること。	必須		
	1-22	所属トップページには、事業PR用のバナー及びリンクの設定ができること。	必須		
	1-23	所属トップページには、Googleマップを表示できること。	必須		
	1-24	ページ作成時に、掲載するカテゴリ分類を容易に選択できること。なお、1つの記事ページについて複数のカテゴリ分類を登録できること。	必須		
	1-25	作成済みの記事ページを、容易に別のカテゴリ分類に移動させられること。	必須		
	1-26	記事ページごとに付与するカテゴリ分類は異なる視点に基づいた分類属性を付与できること。たとえば、目的別視点と対象別視点など異なる視点の分類に付与できること。	必須		

	1-27	カテゴリ分類は大→中→小カテゴリといった一方通的なものだけでなく、必要に応じて、逆引きもできるように設定可能であること。(たとえば、「住宅→申請」といった流れだけでなく、「申請→住宅」といった流れも自動で実現できること)	推奨		
サブサイト	1-28	サイト全体の階層構造とは異なる独自のメニュー構造(階層構造)を持ったまとまりを、サブサイトとして管理できること。独自のメニュー構造は、カテゴリ分類とは独立して存在すること。	必須		
	1-29	サブサイトは、専用のトップページを有すること。トップページには記事ページのように自由に作成できるエリアが設けられ、各所属の担当者で更新・管理ができること。	必須		
	1-30	サブサイトは、トップページ他、リストページ、記事ページ等のテンプレートを使用でき、共通した独自のメニューを各所属の担当者で更新・管理ができること。	推奨		
	1-31	サブサイトは、トップページ他、リストページ、記事ページ等のテンプレートを使用でき、共通した独自のヘッダ画像を各所属の担当者で更新・管理ができること。	推奨		
	1-32	サブサイトは、共通した個所にバナー画像の表示やテキストリンクなどが3箇所に表示でき、各所属の担当者で更新・管理ができること。	推奨		
	1-33	ドメインの異なる複数サイトの管理が1ライセンスのCMSで行えること。	必須		
	1-34	サブサイトは、当該サブサイト内でのみ通用するカテゴリの階層構造を有すること。また、そのカテゴリは、所管する所属が自由に追加更新できること。	必須		
	1-35	サブサイトは、新着情報の表示有無、表示件数の変更、サムネイル表示の有無を管理画面からそれぞれ設定できること。	推奨		
	1-36	サブサイトは、追加の費用が発生すること無く各所属にて管理画面から複数作成できること。	必須		
	1-37	サブサイト作成者は掲載できる所属を任意で選択でき、複数の所属での共同管理ができること。	推奨		

2. ページ作成機能

			要求レベル	対応レベル	備考
基本的な仕様	2-1	作成者がHTML言語を意識することなくワープロ感覚で記事を作成でき、掲載される画面をイメージできる作成画面であること。	必須		
	2-2	テンプレートを使用することで、専門知識を持たない一般的な職員でも編集ができ、見出しや段落、表などがタグの知識を持たなくても容易に記事ページに反映できること。	必須		
	2-3	Microsoft Wordと同様のツールバー機能があり、テンプレートを選択することで、統一したデザインの記事ページ作成が可能なこと。	必須		
	2-4	フォーム入力型のテンプレートも利用できること。	必須		
	2-5	公開側のページ(ヘッダ、フッタ含める)のイメージのまま直接編集ができる機能を有すること。	必須		
	2-6	見出し、本文、画像、添付ファイルなど、構成要素をパーツとして追加し、ページの作成が行えるパーツ登録の機能を有すること。	必須		
	2-7	ワープロソフトのようなWYSIWYGインターフェースとフォーム入力型インターフェースが、同一のテンプレート内で利用できること。	必須		
	2-8	作成した記事ページの定位に、ログインしたユーザーの担当課情報(課室名・電話番号・メールアドレスなど)が自動的に記載されること。また、あらかじめ登録してある複数の問い合わせ先が表示でき、任意に選択できること。	必須		
	2-9	記事ページ作成完了時、必須項目に未入力があった場合、警告を表示しスムーズに修正できること。	必須		
	2-10	ページタイトルの先頭、また末尾に、“渡嘉敷村”などの共通の文字列が自動的に挿入されること。	必須		
	2-11	記事ページのレイアウト、および記事内容はコピーして再利用ができること。	必須		
	2-12	同じ記事ページを更新して再度公開を行う際に、以前公開していた記事ページを前バージョンとして管理できること。バージョンの上限数は特に指定のない限りないものとし、また以前のバージョンを再利用することも可能であること。	必須		
	2-13	ファイルの保存時には、自動的に連番のファイル名が入ること。また、必要に応じて任意のファイル名が指定できること。	必須		
	2-14	画像、添付ファイルのファイル名が、日本語名などのサーバ上で使用できないものである場合には警告を表示し、スムーズに修正できること。	必須		
	2-15	作成時に操作を誤った場合、その操作の1つ前の状態に戻すことができること。	必須		
	2-16	作成途中の記事ページを一時的に保存し、再ログイン後に編集を再開できること。	必須		
	2-17	検索サイトで上位に記事ページを表示させる機能(SEO)対策として、検索用キーワードを容易に設定できること。	必須		
	2-18	記事ページ作成画面内に文字列の検索・置換機能があり、容易に文字列の検索・置換ができること。	必須		
	2-19	権限を与えられた作成者は、HTMLのソースコードを直接編集できること。	必須		

他データの流 用・表の編集	2-20	記事ページ編集画面から入力データの失われる可能性がある画面へ遷移する際に、そのままとどまるか遷移するかを確認メッセージを表示・非表示の選択ができること。	必須		
	2-21	閲覧者が特定の記事のみをダイレクトに検索できるよう、記事ページごとに固定のIDが自動で付与される機能を有すること。	推奨		
	2-22	記事ページごとに固定のQRコードが自動で作成できる機能を有すること。	推奨		
	2-23	Wordデータを取り込み、自動的にHTMLデータに変換できること。その際、Word上で設定された見出しスタイルやリスト情報、揃え位置などをHTMLスタイル上に反映できること。	必須		
	2-24	Word、Excelデータをコピー＆ペーストできること。その際、アプリケーション特有のHTML(CSS)表現を自動的に削除できること。	必須		
	2-25	Word、Excelデータから取り込んだ(もしくはコピー＆ペーストした)表は、再編集できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定などが、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。	必須		
	2-26	表を新規で作成できること。行や列の追加・削除、見出しセルの設定、幅の指定などが、ソースコードを直接編集することなく、容易に操作できること。	必須		
画像	2-27	表の見出しを設定した際に、ソースコードを直接編集することなく、見出しの指定範囲を設定漏れしないように防ぐ機能を有すること。	必須		
	2-28	簡易な操作でクライアント端末やCMSサーバ上にある画像を掲載・参照し、変更できること。	必須		
	2-29	CMSサーバ上に全作成者が共通で使用可能な画像の素材集を設置でき、一覧表示の中から選択して使用できること。また、その素材集は、サイト管理者によって追加、削除が可能なこと。	必須		
	2-30	画像に説明やリンクをつけられること。	必須		
	2-31	画像の代替テキスト(alt属性)の未入力を防ぐために警告が表示されること。	必須		
	2-32	登録できる画像のファイル種別(JPEG、GIF、PNGなど)を制限できること。	必須		
	2-33	公開する画像のファイル容量、または画像サイズを制限できること。	必須		
	2-34	制限容量を超えた画像は自動でリサイズ、または警告を表示できること。	必須		
	2-35	クライアント端末にソフトをインストールすることなく、画像のリサイズ、トリミングなどができる画像の編集機能を有すること。	推奨		
	2-36	画像にコピーライトの表示ができること。	推奨		
	2-37	簡単な操作で画像上の指定された位置に、文字の挿入が行えること。挿入できる文字列は、文字の変更、文字サイズの変更、文字色の変更、文字列に影付きなどの見やすくするための装飾が行えること。	推奨		
添付ファイル	2-38	複数画像のインライン挿入(特定の座標位置ではなく、文字と文字の間に挿入)ができること。また、表示位置、表示サイズの指定が可能であること。	必須		
	2-39	記事ページにWord、Excel、PDFなどの各種文書ファイルをリンクできること。	必須		
	2-40	リンクした文書ファイルの種類(Word、Excel、PDFなど)、サイズが自動で表示されること。	必須		
	2-41	PDFをリンクした場合、Adobe Readerのダウンロードを促す案内が、自動で表示されること。	必須		
	2-42	ダウンロードファイルのリンクは、任意の場所に表示できること。	必須		
リンク	2-43	記事ページからリンクする文書ファイルなどの種類、容量を統一して制限できること。	必須		
	2-44	内部リンク・外部リンクを容易に設定できること。	必須		
	2-45	ページの一覧が表示される画面では各ページのURLがわかりやすく表示されていること。	必須		
	2-46	内部リンクは、一覧などからリンク先を選択するだけで容易に設定できること。	必須		
	2-47	外部リンクを設定した場合、サイト管理者が定めた任意のルールに基づき、リンク文字列の後ろに「外部リンク」などの文言を自動挿入できること。	必須		
	2-48	リンク先を表示する際、別ウィンドウで開く設定が可能であること。	必須		
	2-49	公開前(未承認)の記事ページに対してリンク設定ができること。(新規に作成した記事記事ページのアドレスが公開前に確認できること。)	必須		
	2-50	ファイルの格納場所や、ファイル名が変更された場合など、リンクに関わる変更があった場合には、自動的に該当するリンクが修正されること。	必須		
	2-51	記事ページ公開開始時に、パンくずリスト、指定したカテゴリインデックス、ローカルナビゲーション、およびサイトマップにページタイトルをリンク名としたリンクが自動生成され、公開終了時にそれらが自動削除できること。	必須		
	2-52	内部リンク・外部リンクのリンク切れを一括でチェックでき、一覧として作成者・承認者・サイト管理者が確認できること。	必須		
	2-53	内部リンク・外部リンクのリンク切れをページ単位でチェックでき、ページ内のどの部分にリンク切れがあるか視覚化して確認できること。	必須		

	2-54	リンク切れが発生した際にはメールで通知する機能を有すること。	必須		
	2-55	ページを削除する際に他のページからリンクが設定されていないかチェックを行い、リンクが貼られていた場合は警告表示と該当ページ一覧を表示できること。	推奨		
アクセシビリティ、および チェック機能	2-56	ページ単位でアクセシビリティ上の問題を総合的にチェックできること。また、問題箇所をイメージ画像にて明示し、なぜ問題があるのか、どう修正したら良いのかを表示できること。	必須		
	2-57	記事ページ作成時にアクセシビリティなどに関する項目のチェックを自動で行い、問題がある箇所は警告を表示し、自動変換できること。 ・画像の代替テキストの有無 ・日付、時間などの表記 ・全角英数字、半角カナ文字使用の有無 ・機種依存文字、禁止文字使用 ・不要な全角スペース、半角スペースの使用 ・ページタイトルの有無 ・ファイル名の有無	必須		
	2-58	記事ページタイトル、およびファイル名は重複チェックが可能で、必要に応じて重複を許可することができること。	推奨		
	2-59	使用が好ましくない単語が含まれている場合、サイト管理者が指定する単語に自動変換する機能があること(例:「子供」→「子ども」)。変換対象とする単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。	必須		
	2-60	使用が好ましくない単語の自動変換機能については、記事ページ内容によってはあえて表記する場合も想定できるため、ページ作成者が変換候補とは異なる文字も使用できること。	必須		
	2-61	画像の代替テキストとしての使用が好ましくない単語(例:「写真」、「画像」)が設定されていた場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。	推奨		
	2-62	リンクのタイトルテキストとしての使用が好ましくない単語(例:「こちら」、「こちらをクリック」)が設定されている場合、警告を表示できること。警告を表示する単語は、サイト管理者が任意で登録することができ、登録可能な単語数に制限がないこと。	推奨		
	2-63	表(テーブル)の構造化チェック、キャプションに指定された文字列のチェックを行えること。	必須		
	2-64	見出しの構造化チェックが行えること(例:見出し1の有無、見出し1、見出し2などの階層構造)。	必須		
	2-65	すべてのページに文字拡大機能を有すること。	必須		
	2-66	すべてのページに文字色・背景色変更機能を有すること。	必須		
	2-67	複数の音声読み上げソフトに対応できるよう、作成された記事ページのソースはアクセシビリティに配慮した順番で記述されること。	必須		
	2-68	アクセシビリティチェック時に、記事ページ内の本文や代替テキスト表内の文字など、読み上げ順を確認できること。	推奨		
	2-69	文字色と背景色の組み合わせが、色覚に障がいのある人に適切かどうかを確認できること。	推奨		
	2-70	記事ページ一覧画面においてアクセシビリティに違反する記事ページがひと目で分かるよう表示できること。	必須		
地図	2-71	Google マップなどを用いて、地図情報を提供できること。また、住所や施設名などを入力することで簡単に掲載する地図の場所を指定できること。	必須		
	2-72	同一の地図内に、複数の施設が表示できること。また、ジャンル別や地区別に表示が可能なこと。	推奨		
動画	2-73	CMSで作成する記事ページ内に、YouTubeなどの動画配信サイトに掲載した動画を埋め込み再生できること。	必須		
	2-74	さまざまなサイズやファイル形式で動画の登録・配信が簡単に行えること。ただし、サイズの制限設定があること。	必須		
外部取り込み	2-75	外部で作成されたHTMLファイルや画像ファイルなどを、リンク関係を保持したまま一括でCMSへ取り込めること。	必須		
	2-76	取り込んだファイルは、CMS内で作成するHTMLファイルと同様の操作で再編集できること。	必須		
記事ページの公開・削除・再利用	2-77	各課室の作成者が公開開始・終了日時を入力することで、指定した日時に記事ページの自動更新ができること。	必須		
	2-78	公開期限は、年月日のほかに15分単位で時間指定できること。	必須		
	2-79	公開時間を指定しない記事ページの場合は、即時公開の設定が容易にできること。	必須		
	2-80	公開期限を無期限とする設定が容易にできること。	必須		
	2-81	すでに公開されている記事ページを未来の日付で更新する場合は、現在の記事ページを直接編集し日時設定することで、予定の日時に記事ページが自動更新されること。	必須		
	2-82	記事ページに公開日、または最終更新日が自動的に表示されること。ただし、任意の日付に置き換えができること。	必須		

	2-83	記事ページの公開・更新を行った際、記事ページが所属するカテゴリ、および所属トップ記事ページの内容も自動で更新(タイトルの後ろなどに更新日を自動挿入)されること。	必須		
	2-84	記事ページを公開サーバから削除する際、記事ページが所属するカテゴリ、および所属トップ記事ページに表示された文章とリンクが自動削除されること。	必須		
	2-85	記事ページを公開サーバから削除する際、HTMLファイルだけでなく、付属する画像ファイルやPDFファイルなども同時に公開サーバから自動削除できること。	必須		
	2-86	記事ページを公開サーバから削除する際、対象の画像やPDFなどのファイルが、削除対象ではない記事ページからリンクされた状態にある場合、サーバ上に残ること。	必須		
	2-87	公開が終了した記事ページは再利用できるようにCMSサーバに保存できること。	必須		
	2-88	CMSサーバに保存されている記事ページを一覧から選択・複写し、新規記事ページを作成できること。	必須		
	2-89	公開が終了した記事ページの一覧を表示でき、一括、または選択してCMSサーバから削除できること。	必須		
プレビュー	2-90	記事ページの公開イメージを、作成・承認の各段階で容易にプレビューできること。また、プレビュー画面からは、容易な操作で作成画面などに戻れること。	必須		
	2-91	当該記事ページからリンクをたどる形で、内部リンク先の記事ページも含めて公開時と同じ状態でプレビューできること。	必須		
	2-92	記事ページ単位で、色に頼った情報提供になっていないかを、イメージ画像などにて、視覚的に把握できる機能を有すること。	必須		
	2-93	記事ページ単位で、画像に頼った情報提供になっていないかを、イメージ画像などにて、視覚的に把握できる機能を有すること。	必須		
	2-94	任意の未来日を指定して、その時点での記事ページおよびサイト全体をプレビューできること。	必須		
	2-95	任意の過去日を指定して、その時点での記事ページおよびサイト全体をプレビューできること。	推奨		
	2-96	スマートフォン版ページなど、他のメディアへの表示もプレビューできること。	必須		

3. 自動更新、自動生成機能

			要求レベル	対応レベル	備考
新着リンク	3-1	記事ページ作成時に、指定する新着情報エリア(トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページ、サブサイトトップページなど)へ掲載の有無を設定でき、公開されるタイミングで自動掲載されること。	必須		
	3-2	新着情報に掲載した情報は、自動的に掲載した日付の降順で表示され、表示しきれない情報は、新着情報一覧ページに別途表示できること。	必須		
	3-3	指定する新着情報エリア(トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページなど)に表示できる件数、表示順を、サイト管理者が任意に設定できること。	推奨		
	3-4	指定する新着情報エリア(トップページ、所属トップページ、カテゴリトップページなど)に、「NEW」「新着」などのアイコン表示、および表示期間を設定できること。	推奨		
	3-5	トップページの新着情報エリアに「本日の更新件数」を表示するエリアを設けること。	推奨		
	3-6	新着情報に表示するタイトルを、記事ページのタイトルとは異なる設定できること。	必須		
	3-7	トップページの新着情報に表示する記事ページはサイト管理者の承認が必要となるよう、通常とは異なる承認ルートを設定できること。	推奨		
ナビゲーション	3-8	すべてのページにトップページへ戻るリンクを設定し、統一した所定の位置に表示すること。	必須		
	3-9	各ページに、ページタイトルを自動的に引用したパンくずリストを自動生成できること。	必須		
	3-10	パンくずリストは、カテゴリ別・所属別などの複数の設定に対応できること。	必須		
	3-11	パンくずリストは、閲覧者がサイト内を閲覧したページ順に表示ができ、表示件数は設定できること。	推奨		
	3-12	各ページにグローバルナビゲーション・ローカルナビゲーションを自動生成できること。	必須		
	3-13	サイトマップを自動生成でき、再編集できること。	必須		
	3-14	Googleにクロールさせるためのサイトマップ用XMLファイルを自動で作成・更新できる機能を有すること。	推奨		
	3-15	対象ページが公開された際、ナビゲーションも自動更新され、公開終了時にはそれらを自動的に削除すること。	必須		
RSS	3-16	サイト全体あるいはカテゴリごとの新着情報を、RSSフォーマットで出力できること。	必須		
	3-17	村が指定するページに、外部サイトからRSSで配信される情報を表示できること。	必須		
	3-18	記事ページやサブサイトのページに、各所属担当者の作業にて外部サイトからRSSで配信される情報を表示できること。表示は容易な操作で行え、表示件数の設定ができること。	推奨		

【別紙1】CMS機能要件一覧表

イベントカレンダー	3-19	各イベント情報の記事ページにリンクが設定されたイベントカレンダーが自動生成でき、各所属が入力したイベント情報を月ごとに集約表示できること。	必須		
	3-20	記事ページ作成時に、イベントカレンダーへの掲載の有無を容易に設定でき、公開されるタイミングで自動掲載されること。	必須		
	3-21	定期的なイベント開催などの場合、一度の記事ページ作成で複数表示できること。表示は、日、週、月、年などで設定できること。	推奨		
	3-22	カレンダーに掲載されている内容を、閲覧者がカテゴリ、開催日順、イベント名順、の並び替えに対応していること。	推奨		
	3-23	カレンダーに掲載されている内容を、キーワード、カテゴリ、対象者、開催地域、事前申し込みの有無、費用、曜日、日付で検索できること。	推奨		
	3-24	イベント開催情報を、Googleカレンダー、およびYahoo!カレンダーに任意に自動投稿できること。	推奨		
レコメンド	3-25	「このページを見た人はこんなページも見ています」といった、おすすめページを自動的に表示できること。	推奨		
	3-26	上記とは別に、記事ページにサイト管理者がおすすめする記事ページをサムネイル表示する機能を有すること。	推奨		

4. マルチデバイス対応

			要求レベル	対応レベル	備考
スマートフォン用サイト	4-1	パソコンページを作成した際、同時にスマートフォン端末に対応したページも自動作成できること。	必須		
	4-2	スマートフォンで閲覧する際、最適化されたレイアウトで表示されること。	必須		
	4-3	スマートフォンの利用シーンを想定した、専用のトップページを作成すること。	必須		

5. サイト管理者の管理機能

			要求レベル	対応レベル	備考
基本機能	5-1	複数ユーザーが同時にログインできること。	必須		
	5-2	各担当者や所属部署により、コンテンツのグループごとに編集権限を設けることができること。	必須		
	5-3	ログインするユーザーIDにより、それぞれの権限に応じた画面が表示されること。	必須		
	5-4	ログイン後の画面に、CMS利用上の注意などを促すメッセージを掲載できること。	必須		
	5-5	CMS編集画面上に操作マニュアルを表示できること。	必須		
	5-6	作成者は、作成した記事ページを所属部署ごとに集約して表示できること。	必須		
	5-7	同一ページを同時に別々のユーザーが更新できないこと。あるいは、更新しようとする際に警告が表示されること。	必須		
サイト管理者の権限	5-8	サイト管理者は、サイト内のすべてのページを編集する権限があること。	必須		
	5-9	サイト管理者は、すべてのページを承認ルートによらないで即時公開できる権限があること。また、指定したユーザーに即時公開（災害発生時の公開など）の権限を与えられること。	必須		
	5-10	サイト管理者は、CMSに登録されている全ページの情報（ページタイトル、階層構造、ディレクトリ）をCSVなどに出力できること。	必須		
	5-11	サイト管理者は、カテゴリの追加・変更・削除、記事ページの振り分けができること。	必須		
	5-12	サイト管理者は、すべての記事ページの状態（作成中・承認待ち・公開中・非公開など）を一覧で確認でき、CSVなどに出力できること。	必須		
	5-13	ヘッダー・フッターなどのサイトの共通部分は、サイト管理者のみが変更できること。	必須		
	5-14	サイト管理者は、入力禁止文字の登録・変更・削除ができること。	必須		
	5-15	サイト管理者は、入力禁止文字が使用されているページを検索できること。また、検索後に置換できること。	必須		
ユーザー管理	5-16	サイト管理者は、ユーザーの登録・更新・削除を行えること。また、ユーザーの操作権限・ID・パスワードなどの管理ができること。	必須		
	5-17	サイト管理者は、登録済みのユーザー情報をCSVなどに出力できること。また、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用してユーザー情報をCMSに取り込めること。	必須		
	5-18	サイト管理者は、人事異動時に伴うユーザーの所属変更を、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用して簡単に行えること。また、年度末などの指定された日付で変更を適用できること。	必須		
	5-19	サイト管理者は、ユーザーの操作履歴（ページの公開・削除、操作日時・操作者・操作ページ・操作内容など）を確認でき、CSVなどに出力できること。	必須		
組織管理	5-20	サイト管理者は、組織情報（部署・施設名、問い合わせ先情報など）の管理ができること。	必須		

	5-21	サイト管理者は、登録済みの組織情報をCSVなどに出力できること。また、事前にExcelなどのデータで作成したCSVなどを利用して組織情報をCMSに取り込み、組織改正などに簡単に対応できること。	必須		
	5-22	サイト管理者は、所属の統廃合・追加・問い合わせ先変更など、組織改正による情報更新を事前に予約でき、年度末などの指定された日付で変更を適用できること。	必須		
	5-23	サイト管理者は、組織改正時に記事ページの移動（所属カテゴリの変更）などが簡単にできること。	必須		
テンプレート管理	5-24	管理可能なテンプレート数に上限がないこと。	必須		
	5-25	テンプレートは、HTMLやCSSの知識がある職員（サイト管理者）レベルで、修正、追加、削除ができること。	必須		
	5-26	テンプレートの修正があった場合、該当テンプレートを使用しているすべてのページを自動更新できること。	必須		
災害管理	5-27	災害や断水などの緊急時、トップページの目立つ位置に災害情報を配信できること。	必須		
	5-28	大規模災害などの緊急時向けトップページのテンプレートを作成すること。	必須		
	5-29	サイト管理者は、簡易な操作で災害時用トップページに切り替えられること。	必須		
	5-30	スマートフォン版、および携帯電話版（導入する場合）のトップページも切り替えられること。	必須		
バナー広告	5-31	トップページ・カテゴリトップページなど、任意のページの村が指定する位置に、複数のバナー広告を表示できること。	必須		
	5-32	サブサイトに複数のバナー広告を表示できること。	推奨		
	5-33	サイト管理者のみがバナー広告を管理・掲載・削除でき、特別な知識がなくても容易に操作できること。	必須		
	5-34	掲載期間を設定することで、あらかじめ登録しておいたバナー広告を自動的に掲載開始・終了できること。	必須		
	5-35	バナー広告の表示数は、容易に変更できること。	必須		
	5-36	画像データは、JPEG・GIF（透過GIF・アニメーションGIF）・PNG・BMPが使用できること。	必須		
	5-37	画像バナーに限らず、テキストバナーも容易に掲載できること。	必須		
	5-38	バナー広告の空きスペースには、「募集中」などの代替画像を表示できること。	必須		
	5-39	設置されたバナー広告がどれだけクリックされているかを集計する機能があり、集計された結果をCSVなどに出力できること。	必須		
カウントダウン	5-40	イベントなどの開催日まであと何日といった表示ができること。	推奨		
	5-41	イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、トップページに3か所表示でき、それぞれ内容説明、および記事ページへのリンク設定などを、容易に操作できること。	推奨		
	5-42	イベントなどの開催日まであと何日といった表示は、記事ページに表示でき、それぞれ内容説明、および記事ページへのリンク設定などを、容易に操作できること。	推奨		

6. 承認ワークフロー

			要求レベル	対応レベル	備考
基本仕様	6-1	作成者から承認者への3段階以上の承認ルートがあること。	必須		
	6-2	管理の対象ごとに異なった承認ルートを設定することができ、上限は設けないこと。	必須		
	6-3	承認を依頼されたページを一覧で確認できる画面において、各ページの承認段階（3段階中2段階まで承認済みなど）が表示されること。	必須		
	6-4	新着情報に掲載する場合のみ、自動で通常承認ルートを経由し最終承認をサイト管理者が行えること。	推奨		
	6-5	サイト管理者は、承認ルートの変更や追加を容易な操作で行えること。	必須		
	6-6	サイト管理者は、すべての記事ページの承認状況を確認できること。	必須		
	6-7	承認者は、承認依頼を受けた記事ページに対し、アクセスビリティチェックやプレビュー確認を行えること。	必須		
	6-8	承認者は、再承認依頼を受けた記事ページの変更された箇所を視覚的に確認できること。	推奨		
	6-9	承認依頼時や差し戻し時に、メールによる連絡が送信されること。	必須		
	6-10	作成者・承認者は、所属の記事ページの承認状況を確認できること。	必須		
	6-11	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを差し戻す際、作成者向けにコメントを追記できること。	必須		
	6-12	作成者と同じIDのユーザーでは、承認作業はできない。	推奨		
代理承認	6-13	承認者が不在の時、代理承認などの手段によって記事ページが公開できること。	必須		
承認依頼中の修正	6-14	承認依頼中の記事ページを作成者自身がキャンセルし、記事ページ内容を再編集できること。	必須		
	6-15	承認者は、承認依頼を受けた記事ページを上書き編集できること。	必須		

7. その他の機能					
			要求レベル	対応レベル	備考
定型的な記事ページと専用の登録画面	7-1	定型的に情報登録を行うことで、決められた位置に決められた内容の情報が表示される定型的な記事ページを作成管理できること。	必須		
	7-2	記事ページ作成画面においては、あらかじめ登録内容、登録方法が決められた各項目に情報を記入したり選択肢から選択するだけで記事ページが作成されること。	必須		
	7-3	記事ページ作成画面における登録項目については、サイト管理者が、その登録方法(テキストエリア、ラジオボタン、チェックボックスなど)や必須の設定、登録内容の制限(最大文字数の制限など)を各項目ごとに自由に設定することが可能で、かつ項目数に上限なく追加更新できること。	推奨		
	7-4	定型的な記事ページは、複数作成管理でき、管理数の上限はないこと。	推奨		
	7-5	定型的な記事ページは、それ以外の記事ページ(WYSIWYG機能などで作成した記事ページ)と比べ、カテゴリ分類や特定の記事ページへのリンク掲載などにおいて、全く同様に設定管理できること。	推奨		
	7-6	定型的な記事ページは、それ以外の記事ページ(WYSIWYG機能などで作成した記事ページ)と同様に、そのデザインはテンプレート化され、CSSにて定義されること。	推奨		
	7-7	定型的な記事ページは、それ以外の記事ページ(WYSIWYG機能などで作成した記事ページ)と同様のルールと機能にて、アクセシビリティなどのチェックや対応が可能であること。	推奨		
	7-8	定型的な記事ページは、それ以外の記事ページ(WYSIWYG機能などで作成した記事ページ)と同様の承認ルート設定が可能であること。	推奨		
多言語対応	7-9	英語、中国語(簡体字・繁体字)、韓国語の3カ国以上の言語に対する自動翻訳システムを導入すること。	必須		
	7-10	別に作成した、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語、ベトナム語、ラオス語、カンボジア語のテキストデータをCMSに取り込んで、正常に表示できること。	必須		
アクセス解析	7-11	ページごとのアクセス件数、検索キーワードなどが取得できること。	必須		
	7-12	閲覧者の使用するブラウザ・OS・モニタサイズが集計できること。	必須		
	7-13	閲覧者の接続ポイント(都道府県)が集計できること。	必須		
	7-14	解析結果は、CSVファイルなどで保存・出力できること。	必須		
	7-15	庁内LANからのアクセスと外部からのアクセスを区別して集計できること。	必須		
サイト内検索	7-16	キーワードでサイト内のページが検索できるよう、検索の入力フォームを全ページに配置すること。	必須		
	7-17	キーワード完全一致の検索だけでなく、表記の違いがあっても検索結果が表示される同義語検索機能が備わっていること。	必須		
	7-18	ページのみ、PDFのみに絞った検索や、分類を選択した検索ができること。	必須		
	7-19	広報誌などに付与された記事IDや記事番号を入力してページを検索できること。	推奨		
	7-20	サイト内と別サーバで稼働している本村関連ページ内の検索ができること。	必須		
	7-21	検索結果のページは、サイト内の他のページと同様、同じ体裁のヘッダー、フッターを表示させ、閲覧者には、別のサイトに移動してしまったという印象を与えないようにすること。	必須		
問い合わせ	7-22	すべての記事ページに、その記事ページに関するSSLに対応した問い合わせフォームを自動で挿入でき、閲覧者が意見・問い合わせなどを簡単に送信できること。	必須		
	7-23	投稿者が送信前に入力内容を容易に確認できること。	必須		
	7-24	投稿者からの問い合わせに対し、メールで回答できること。	必須		
アンケート	7-25	SSLに対応したアンケートフォームを容易に作成できること。	必須		
	7-26	サイト管理者だけではなく、各所属にてアンケートを作成できること。	必須		
	7-27	同時に複数のアンケートが設定できること。同時に開設できるアンケートページ数に上限がないこと。	必須		
	7-28	アンケートは指定した公開日・削除日に、自動公開・自動削除できること。	必須		
	7-29	各アンケートページの設問数は、上限がないこと。	必須		
	7-30	各設問は、択一方式(ラジオボタン)、複数選択可(チェックボックス)、プルダウンメニュー、自由記入欄のほか、一般的なフォームのスタイルを自由に採用できること。	必須		
	7-31	入力項目には、必須・任意の設定ができること。	必須		
	7-32	作成したアンケートページに、画像の貼り付けや各種ファイル(例:PDF)へのリンク、関連ページへのリンクなどの掲載ができること。	必須		
	7-33	アンケート結果を集計する機能があり、途中集計や集計された結果をCSVファイルなどで保存・出力できること。	必須		
	7-34	投稿者が送信前に入力内容を容易に確認でき、送信後に自動返信メールを送信できること。	必須		
FAQ機能	7-35	テンプレートを用いて、カテゴリ別表示が可能なFAQページ(よくある質問ページ)を容易に作成・更新・削除できること。	必須		

【別紙1】CMS機能要件一覧表

	7-36	FAQページ(よくある質問ページ)には、関連ページへのリンクや問い合わせ先を容易に設定できること。	必須		
	7-37	関連ページや問い合わせ先が変更・移動・削除された場合は、自動で修正できること。	必須		
	7-38	カテゴリによる検索が可能であること。	必須		
ウェブブック	7-39	パソコンおよびスマートフォンにて再生できるウェブブック(ページをめくるような操作で閲覧できる、拡大縮小機能を有する)を作成できること。	推奨		
	7-40	ウェブブックは、各所属の担当者にてCMSから簡易な操作で作成、編集ができること。	推奨		
	7-41	作成できるウェブブックの冊数に上限がないこと、追加の費用が発生しないこと。	推奨		

推奨項目数